



ある冬の日、山の中で猛禽類の定点調査を行っているときでした。寒さをこらえながら猛禽類が出るのを今か今かと待っていると、遠く頭の上から、「コォー、コォー」という複数の大きな鳴き声が聞こえてきました。あれ、なんでこんな方向から聞こえるんやろ?と思い空を見上げると、遙か上空にハクチョウの群れが編隊を組んで飛翔する姿がありました。渡りの途中なのでしょう、群れはさかんに鳴き交わしながら、さまざまに形を変え、悠々と飛び去って行きました。また、別の日には大空にマガンが渡って行く姿を見たこともありました。越冬地の田んぼや水辺で休息したり、餌を食べたりして、のんびり過ごしているように見える?彼らの姿を見たことはありましたが、実際に渡って行く途中の姿を見るのは初めてでした。観察していると、肉眼でも良く見える高さを飛翔している場合もありますが、空に溶

ある日のフィールド・ノートから

鳥の渡り

けいりそうなほどの高空(双眼鏡で確認してやっと見つけられるくらい)を飛翔している場合もあります。たいていその存在に気付くのは鳴き声からで、とても離れた距離からでも、驚くほどその鳴き声はよく聞こえました。

数年前に「WATARIDORI」という映画が日本でも公開され話題になりました。それを見に行ったら時を渡る鳥の美しさにただただ感動!でしたが、実際に渡りを目の当たりにした時は、その力強さと厳しさに圧倒され、しばし見とれてしまいました。

鳥の渡りについてはまだまだ分からないことが多く、標識調査や衛星による追跡調査で少しずつですがその謎が解明されつつあるようです。オオハクチョウやコハクチョウは、体重が6~12キロもあるにもかかわらず、遠くシベリアの地から日本をめざして3000~4000キロもの距離を渡って来ます。マガンは時速100キロで約10時間飛び続けたという報告もあります。生まれて数ヶ月しかたたない幼鳥でも、家族と共にはるばる海を越えて何千kmも渡ってくるのですからすごいことです。

調査中ではありましたが、1人たらずで渡っていく鳥達を見るのは、なんて贅沢なことだろうと思いました。そして、いつまでもこの光景が失われることなく続いていって欲しいと思いました。

(東京本社自然環境研究室 渡辺由佳)

ご意見ご質問

お待ちしております

素朴な疑問やご感想など下記のアドレスまでお寄せください。お待ちしております。

E-mail : nl-info@chiikan.co.jp

編集後記

医療関係の仕事から動植物調査の会社の事務員さんとなり、早3年目を迎えました。入社当時は動物の骨や鳥の羽・魚のホルマリン漬けなどが日常当たり前のように並んでいる風景に驚き続け、とても新鮮な毎日を過ごしていました。ですが慣れとは恐ろしいもので、最近は少々事では驚かなくなってきました。

最近初めて「虫洗い」というものにチャレンジすることができ、虫の違いなど全くわからなかったのですが、時間が経つにつれ、虫の体の色・羽の模様・脚の長さ・頭など、だんだん微妙な違いを見つけることができるようになり、ひとり喜んでいました。まだ現地調査のお手伝いに出たことはありませんが、この「虫洗い」のようにいつかはチャレンジしてみたいと野望を持ちつつ、身も心も地環の人間になりつつある自分が少しうれしい今日この頃です。

(岡崎 康代)

News Letter NO.25 2005年6月

【発行】.....株式会社地域環境計画

発行人.....高塚敏
編集: 中山香代子・鈴木志保子・釣谷佳子・岡崎康代・高岡由紀子・小笠原雅子

東京本社 〒154-0015
東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDS ビル
TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701
営業窓口.....鈴木志保子・高岡由紀子
東北分室 TEL 024-515-1105 / FAX 024-515-1106
営業窓口.....浅尾勝彦
大阪支社 TEL 072-684-3182 / FAX 072-684-3184
営業窓口.....中山香代子
北海道支社 TEL 011-717-8001 / FAX 011-717-8021
営業窓口.....中島正雄
九州支社 TEL 092-833-5270 / FAX 092-833-5271
営業窓口.....井原寛人